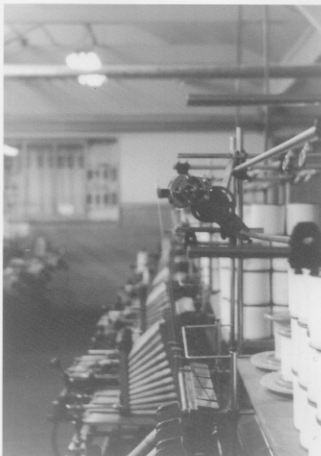


丸井グループ社史

丸井グループ

2

時の真相に迫る



当分の管巻機

実力勝負の世界へ旅立つ。

一村産業からの離脱

昭和40年、丸井織物は取引先の変更に踏み切った。賃織り加工の世界で、生産・流通の現場を一手に握る取引先は、社の死命を制する存在と言ってよい。しかも、丸井織物の取引先は、30年代後半から産元商社として飛ぶ鳥を落とす勢いで石川産地を制していった一村産業である。いわば、そのドンに三下り半を突きつける選択に、丸井織物はもとより宮米織物も巻き込んだの騒動となった。

丸井織物が一村産業からの離脱を決めた理由には、一村傘下の会社が年功序列化され、丸井織物のような新参者には加工賃の高い仕事が多くなかなか回ってこないという事情があった。他方、宮米織物は一村傘下の名門機屋としてならし、一村産業とは強いつながりを持っていた。同族会社が産元の秩序を乱す行動を取ることは、避けたいのが本音だった。

当の一村産業のトップは、「好きなようにすればいい」と鷹揚な態度を示したものの、いろいろ

なルートを通じて離脱表明の撤回を要請してきた。丸井、宮米織物の両社内でも、対応を協議するための会議が断続的に開かれた。

それでも、丸井織物は初志を貫徹する道を選んだ。年功に関係なく、実力だけがものをいう舞台に立った方が、将来的にチャンスが広がるとの判断からだった。丸井織物は新たな取引先を決めるのに当たり、地元の産元商社を避け、金沢市に支店のあった東京の蝶理と契約を結んだ。

予想通りと言うべきか、蝶理との取引は、情より何より品質が最優先された。産元商社の傘下で小成に安住せず、あえて厳しい世界に挑むとの方針は、社内にはいい意味の緊張感を生み、技術への正当な評価は社員のやりがいも影らませた。

さらに、蝶理との出会いが、その後の東レとの出会いをつくり、最大手の東レにも臆せず果敢に挑戦し続けた結果が、丸井織物の現在を形づくった。

昭和41年、全国で構造改善対策の実施が決定した。石川県繊維協会はこれに先駆け、構造改善事業のポイントを把握するため4月、繊維産業調査団を編成して訪韓。その成果が実り、翌年、石川産地は全国トップで事業計画を推進することができた。構造改善事業は41年から5カ年にわたり、総額747億円の規模で実施された。初年度には改善事業の一環として、転廃業の買い上げを行い、不況に呻吟していた零細業者が殺到した。

1966 ▶ 1967

昭和41年

昭和42年

石川産地は全国トップで事業計画を推進

宮米織物の動き

石川県の動き

日本と世界の動き

丸井織物の動き

42年

- 11月 丸善織物を吸収合併し、織布工場を久乃木に新設
織機台数100台
傘下取引工場が45工場に激増
ダウンツイスター2台導入
ダブルツイスター2台導入
資本金を2,400万円、増資

41年

- 4月 金沢市の片町・香林坊商店街近代化工事完成祝賀式
- 5月 県社会教育会館が完成し開館
- 7月 金沢市民オーケストラ結成
- 10月 県社会福祉会館が完成
金沢港の起工式

42年

- 2月 金沢市内電車が全面廃止
- 6月 金沢大学日本海域研究所、がん研究所が発足
- 9月 金沢市湯涌町に江戸村が完成
- 10月 大日川ダムが完成
- 11月 北陸電力が、原子力発電所建設地として富来・志賀町にまたがる赤住・福浦地区を発表
白山スーパー林道起工式
- 12月 兼六園の年間観光客が初めて200万人を突破

41年

- 1月 インディラ・ガンジー女史がインド首相に
- 2月 全日空機が東京湾に墜落、133人全員が死亡
- 3月 カナダ機が羽田空港防潮堤に激突炎上、64人が死亡
イギリス機が富士山に墜落、124人全員が死亡
- 5月 中国で文化大革命がスタート
- 6月 ザ・ビートルズが初来日
- 8月 政府は100円紙幣を新硬貨とすることを決定
- 12月 第3次佐藤内閣が成立
ベトナム戦争の特需で活況を呈す

42年

- 2月 アメリカ、南北ベトナムで「枯葉作戦」を展開
- 7月 EC結成
- 8月 ASEAN結成
- 10月 全米でベトナム反戦デモ



宮米織物 織布工場内



宮米織物 新卒入社者



丸井織物 蒸糸工場（井田時代）



昭和42年 合併後の丸井織物織布工場

●昭和41年

ブーム：ミリタリー룩、アンブル入り強精活力剤

流行語：黒い霧、ゴマすり、生きがい

流行歌：骨まで愛して、君といつまでも、バラが咲いた

●昭和42年

ブーム：ミニスカート、グルーブサウンズ、ヒッピー

流行語：蒸発、カッコいい、ボイン

流行歌：ブルーシャトー、世界は二人のために、帰ってきたヨッパライ